


海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	高原 楠昊  印
所属機関	東京大学医学部附属病院 消化器内科
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ International Pancreatobiliary Live Endoscopy Course (Vallado-Live 2017) ・ United European Gastroenterogy Week 2017
渡航期間	自 平成 29年 10月 24日 至 平成 29年 11月 2日
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	「Prognostic value of early CA19-9 response during chemotherapy in patients with advanced or recurrent biliary tract cancer」
研究成果 （ 要約：800字 ）	
<p>スペイン消化器内視鏡学会(Sociedad Espanola de Endoscopia Digestiva)が主催する International Pancreatobiliary Live Endoscopy Course (Vallado-Live 2017)に参加し、各種講演および内視鏡ライブデモンストレーションを聴講・見学した。参加者と議論を交わすなかで、海外と我が国との胆膵内視鏡診療に対する考え方の違いを理解することができた。今後、胆膵内視鏡診療の発展を考えるうえで、非常に有意義な機会であった。</p> <p>また、25th UEG Week Barcelona 2017 に出席し、ポスターセッション Liver and Biliary I で、「Prognostic value of early CA19-9 response during chemotherapy in patients with advanced or recurrent biliary tract cancer」 (P0089) というテーマで研究成果を発表した。本研究により、切除不能・術後再発胆道癌に対する化学療法施行例において、開始時 CA19-9 および2コース後の CA19-9 推移は全生存期間および無増悪生存期間に対する予後因子であることを示した。また治療に伴う CA19-9 の反応性は抗腫瘍効果の判定に補完的な役割を果たしうることを報告した。参加者と討議し、画像評価に加えて CA19-9 の推移を考慮することで、切除不能・術後再発胆道癌に対する化学療法の効果をより正確に評価することが可能となり、無効な化学療法の継続による有害事象やコストの減少および2次化学療法の積極的な導入をもたらし、ひいては治療成績の向上に寄与する可能性があるという点で意見の一致を得た。</p>	